

令和6年度 自己評価計画書（中間）

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>①教育委員会との連携のもと、2次避難している生徒の学習環境を整備する。</p> <p>②「コア輪島」「夢道場」などの自主学習活動を通して、生徒が主体的かつ発展的に学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>③教員の教科指導力を高め、3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p>	<p>*GIGA スクール校内研修 *探究型学習の授業研究 (オンデマンド研修も活用)</p> <p>*相互授業参観 *ICT 機器利活用研修会</p> <p>*コア輪島、生徒間の学び *スタサポの振り返り *大学模擬授業や学校説明会の実施</p>	<p>ICT 機器を利活用した探究型授業を実施し、その研究や改善のための取組や研修会に参加した教員の割合が</p> <p>A：80%以上 B：60%以上 C：30%以上 D：30%未満</p> <p>模擬試験で英国数総合の平均偏差値45～50の層にいる生徒が偏差値50を超えることができた割合が</p> <p>A：50%以上 B：30%以上 C：10%以上 D：10%未満</p>	<p>62%</p> <p>B</p> <p>—</p>	<p>成果：日々の授業内で ICT 機器の利活用を意識することについては、これまでの取組が浸透しつつあることもあり、それぞれの教員が強く意識して授業実践を積み上げている。</p> <p>課題：授業実践を踏まえた研修会等が実施できていない。</p> <p>改善策：2学期以降に、校内での研修会実施を予定している。また、研究授業等を通じた授業研究の実施を予定している。</p> <p>現状</p> <p>7月進研模試において、偏差値45～50の層の人数が</p> <p>1年 11人 2年 15人 3年 11人</p> <p>である。1、2年は1月進研模試、3年は10月進駿模試の結果で評価する。</p>

令和6年度 自己評価計画書（中間）

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>2 人間力を向上できる学校</p> <p>①「部活道」については、活動場所や活動内容に創意工夫を加えながらできることから実施し、順次拡大していく。</p>	<p>*部活動、ボランティア *球技大会、文化祭</p>	<p>部活動や学校行事が自己効力感を高めるための指導になっており、生徒の主体性が高まったと感じる教員の割合が</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%以下</p>	<p>100%</p> <p>A</p>	<p>成果：震災による制限がある中だからこそ、生徒一人ひとりが何ができるかを考える場面が多く、部活動・学校行事を通して自己効力感を養うことができた。</p> <p>課題：一方で、制限を緩和できる状況ではなく、現状が続けば、自己効力感は薄れていくと考える。</p> <p>改善策：活動環境を整え、生徒たちが自分たちの取り組みで学校が変わっていったと感じられる方法を模索する。</p>
<p>②学校行事を通して、他者を思いやりよりよい人間関係を築こうとする心を育成する。</p> <p>③地域、NPO法人、大学などとの連携を強化し、多様な人々と協働して課題解決を図る姿勢を育成する。</p>	<p>*地域と連携事業 *PTA・同窓会との連携</p>	<p>地域の活動に参加した際に自分の役割を考え、主体的に行動できたと感じる生徒の割合が、</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%以下</p>	<p>73%</p> <p>B</p>	<p>成果：震災に関連した活動や団体との交流等が増えた。故郷の今後や自己の在り方について熟考し、故郷の復興について主体的に考え、行動する姿が見られるようになった。</p> <p>課題：様々な団体や人の支援を受けながら、活動に取り組むことができているが、その機会が過多となりつつある。そのため、生徒の中には受け身の姿勢が生まれつつある。</p> <p>改善策：今後も様々な活動の参加依頼が増えることが予想される。そのような状況下で、指導者側が学習機会や教育的効果とこれらの活動とのバランスを考え、精選することも大切である</p>

令和6年度 自己評価計画書（中間）

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>3 地域と共に成長できる学校</p> <p>①「WAJI 活」を「ふるさと創生」に特化した取組として充実させ、地域貢献意識の向上と実践力の育成を図る。</p> <p>② 輪島市主導の「高校魅力化プロジェクト」との連携により、将来にわたり地域を支えていく人材を育成する。</p> <p>③小中学校との生徒間交流事業や教員研修、各種団体との連携を通して、「オール輪島」で生徒を育てる。</p>	<p>*WAJI 活</p> <p>*輪高生による街づくりプロジェクト</p> <p>*課題解決型学習</p>	<p>「WAJI 活」を通して、自己有用感が高まったと感じる生徒の割合が、</p> <p>A：75%以上</p> <p>B：60%以上</p> <p>C：50%以上</p> <p>D：50%未満</p>	<p>69%</p> <p>B</p>	<p>成果：2年生を中心とした街づくりプロジェクトでは、外部企業や団体と連携して活動するグループも多く、自分たちの力で周囲を動かすことができることを実感している生徒は多い。</p> <p>課題：学年単位の取り組みに終始し、学校全体の取り組みとなっていない。</p> <p>改善策：2学期後半には学年間で探究成果を共有し共に活動していくことで、より深い探究になるように支援していくとともに、教員間の連携を図る。</p>
	<p>*相互授業参観</p> <p>*教科間交流</p> <p>*研究授業と研究協議会</p>	<p>校種間での相互授業参観や教科間交流等に参加した教員が</p> <p>A：90%以上</p> <p>B：70%以上</p> <p>C：50%以上</p> <p>D：50%未満</p>	<p>39%</p> <p>D</p>	<p>成果：教科指導力を高めるために自己研鑽に努める教員は、積極的に各種研修に参加したり、校内で他の教員の授業を積極的に参観し授業改善に努めていた。</p> <p>課題：震災の影響で校種間の交流事業が困難である。また、他校との遠隔授業のために教員の教材研究等の対応が必要だった。</p> <p>改善策：研究授業のある週を互見授業週間に位置付け、他教科の授業を参観し授業改善に繋げる。</p>

令和6年度 自己評価計画書（中間）

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>4 多忙化改善を積極的に実現できる学校</p> <p>①被災環境の中、すべての行事についてその意義や効果を見直した上で、再開・廃止・変更などを検討し、業務の効率化と最適化を図る。</p> <p>②教員の日常生活の再開と維持に向けて、生活環境の整備を行政等に働きかけ、ワークライフバランスの充実に努める。</p> <p>③生徒、教職員とともに時間管理や健康管理などセルフマネジメントに対する意識を高め、効率性向上に努める。</p>	<p>*行事の精選・省力化 *定時退校日の設定 *主任等ミーティング</p>	<p>教員自身が自己の役割を認識し主任を中心とした業務を進めていると感じる教員の割合が</p> <p>A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>92% A</p>	<p>成果：主任を中心に協働した業務を進めている。従前の取組や方法にとらわれず、状況に応じて業務の効率化・省力化を押し進めている。</p> <p>課題：地震により施設設備の使用に制限があるため、各種行事の開催に支障が出ている。外部機関の協力を得たり物品や会場を借用するにあたり、事前準備や移動時間などで負担がある。</p> <p>改善策：できるだけ早期に計画を立て外部機関との連絡調整にあたる。全教員の意見を主任が集約し、より一層業務の最適化を進める。</p>
	<p>*毎朝の登校指導 *挨拶運動 *チャイムの停止</p>	<p>生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して</p> <p>A：100日以上 B：90日以上 C：80日以上 D：80日未満</p>	<p>73日登校中62日達成 年間170日相当</p>	<p>成果：1月の状況を見て判断する。</p> <p>課題：2学期になり、登校時間がこれまでの8時40分から8時10分に変更になったため遅刻者が増加する可能性が考えられる。</p> <p>改善策：①無遅刻の日の見える化。 ・職員室の出欠確認ボードに達成日を毎日更新。 ・生徒玄関のホワイトボードに達成日を毎日更新。 ②遅刻者との個人面談。</p>